

12月の果実の見通し

区分 品目	入荷量(t)			単価(円/kg)			山形県産前年実績		コメント
	前年実績	前年比 見込 (%)	5カ年 平均	前年実績	前年比 見込 (%)	5カ年 平均	前年 入荷量 (t)	前年 占有率 (%)	
みかん類	35,413	102	34,971	249	81	233	-	0.0	愛媛、長崎、熊本、静岡産中心。早生は12月上旬終了となる。極早生の販売苦戦が早生になっても好転がみられない。秋口の好天で品質は確実に向上している。小売店では安値で販売されており、徐々に動きは出てくると思われるが、好調だった前年の価格は大きく下回る見込み。
りんご (ふじ)	5,133	110	5,364	286	95	263	1,015	19.8	青森、長野産中心の入荷となる。早生～中生まで潤沢感が強く販売苦戦が続いていたが、ふじが回り始めた11月上旬から徐々に状況が回復してきた。本年の晩生品種は作柄良好であり、玉肥大も良く、食味もよい。不足感の強かった前年より価格は下回るが、堅調な販売が見込まれる。
いちご類	2,468	104	2,661	1,767	100	1,678	-	0.0	栃木、福岡、佐賀、静岡産中心の入荷となる。関東産は順調な出荷が続いており、栃木産「とちおとめ」は11月半ばに一度目のピークを迎えた。九州産は生育が若干遅れ気味であるが、11月末には各産地ともに出回ってくる見込み。12月上旬に出回り量が増えるため価格は下げ基調になるが、業務需要の引き合いも堅調で中旬以降持ち直し見込み。
かき類	2,261	104	2,497	305	90	296	45	2.0	福岡、奈良産が中心となる。品種は富有柿中心。秋果全体が豊作基調で前年を下回る価格が続いているが、内容は評価されており、12月販売にはある程度回復する見込み。価格は昨年を下回るが近い水準で年末を迎えると予想される。
メロン類	840	100	930	839	105	763	1	0.1	アールスメロンは熊本、静岡産中心。景気動向が良くない中でも、静岡産はしっかり評価されており、11月中旬でも価格を引っ張っている。必要とされる場所では価値を認められている。12月以降も静岡が引き続き価格を牽引する見込み。
ほしがき	456	120	550	2,155	87	1,948	28	6.1	長野、静岡産が中心となる。量が多く、前年を下回る価格推移が予想される。
西洋なし (ラ・フランス)	608	75	582	312	106	316	570	93.8	裏年な上、自然災害もあり、入荷量が少ない。少ない入荷量を高値の言い訳にすると、今後豊作なら安値で良い、ということになってしまう。品質は安定しており、食味良く、評価は高い。今後も品質向上を心掛ければ、市場価格が大きく落ち込むことはないと思われる。